

令和 4 年度 学校評価シート

青梅市立霞台小学校

項目	評価	分析結果	改善策	学校関係者 評価記入欄		学校の見解と今後の 方向性
				評価	コメント	
①子供たちは、楽しく学校に通うことができている。	A	児童・保護者ともに 9 割が肯定的な意見だった。1.2 % (昨年度 1.7 %) の児童がそう思わないと回答している。	さらに学校に楽しく通えるように、教育活動を工夫していくのと同時に、悩みを抱える児童の早期対応をするために、SC も活用し、問題解決を図る。	B	登下校時、元気に通学している児童を見かける。 不登校の子に対してオンライン対応ができている。 高学年には人間関係の軋轢を感じさせる言動がちらほら見受けられる。	学校内では、大半の児童が元気に楽しく活動ができているが、中には自己肯定感の低い児童も見受けられる。教育活動で、自己肯定感の向上が図れるよう取り組んでいく。
②学級の授業は、充実していると感じる。	A	授業の内容は分かると回答している児童は、約 9 割だが、学習内容はあまり定着していない。	さらに授業の充実を目指し、その場限りの理解にとどまることがないよう、ICT を活用し、授業改善に努めていく。	A	どの学年も明るく楽しそうに授業を受けている。 新しい ICT 機材を積極的に取り入れ、応用の可能性を探っている様子がよくわかる。	ICT を活用した校内研修を進めた。今後も授業の充実のため授業改善に努めていく。ICT は全クラスで毎日使えるようになってきている。
③子供たちは、挨拶やマナー・生活習慣をしっかりと身に付けている。	B	挨拶等を意識していると回答した児童も保護者も約 9 割である。昨年度に比べて保護者の割合が上がっている。(昨年度保護者は 7 割)	相手に伝わる挨拶を心掛けるように指導するのとともに、家庭への更なる啓発をすすめていく。	B	朝、挨拶をしてくれる。 近隣住民との挨拶も増えてきた。 しかし挨拶に元気がない子供がいる。 登校時見守りで声をかけると頷いてくれる。 寒くなると挨拶が減る傾向がある。	今後も「あじみこし」の取組を全校で推進していくことにより、時や場所にに応じた挨拶やマナー・生活習慣の徹底を今後も図っていく。教職員もさらに意識して取り組んでいく。
④子供たちは、安全を意識して歩いたりヘルメットを着用して自転車を運転したりしている。	B	安全への意識があると答えた児童は、8 割を超えている。安全への意識は、学年が上がるほど薄くなっている。	ヘルメット着用の周知徹底を更に強く行っていく。自分の命はひとつしかないということを児童に理解させていく。	B	ヘルメットをかぶり、自転車に乗っている子は 2/3 程度ある。	ヘルメット着用が法令により義務化した。今後も、子供たちの命を守るため、ヘルメット着用を周知徹底し、安全への対応ができるようさらに徹底していく。
⑤学校は、学校だより・HP・メール等を通じて、学校の情報を伝えている。	A	97.1% の最も高い肯定的な評価であった。	今後も学校情報の発信に努め、更に開かれた学校を目指していく。 メールも添付ファイルを活用し、伝えられる内容が充実した。	A	よく伝えている。 学校だより、メール、HP で学校の最新活動状況がよくわかる。 PTA 広報誌もペーパーレス化に協力している。	HP を活用した学校情報の公開が一層推進できた。今後も、さらに充実した内容を伝えられるように努力していく。 安心メールの活用も進め、情報発信をより共有できるようにしていく。

⑥学校は、学年日より、学級日より・HP等を通じて、子供たちの学校生活の様子を伝えている。	A	今年度は、学校公開を行うことができた。子供たちの学校生活の様子を伝えていると答えた保護者が9割を超えていた。	学校の様子を伝えるために、学校公開を学期に1回、参観保護者を学期に1回行う。学級だよりの発行やHPの更新を充実させ、学校の様子を定期的に保護者や地域の方々に伝えていく。	A	伝えていると思う。各学年の様子がわかる。保護者から児童の家庭の様子を伝えてもらうことを検討してはどうか。	今年度はできる限り、学校公開、授業参観・保護者会を実施できるように工夫した。 今後は、さらにどの学年でも知りたい情報を発信できるようにしていく。
⑦子供たちは、家庭学習の習慣が身に付いている。【低学年は30分・他学年は学年×10分】	B	低学年は家庭学習の時間が目標時間に達している児童が多いが、学年が上がるにつれて達成率が下がっている。	家庭学習の習慣化に向けて、児童及び家庭に意義を周知していく。家庭学習を習慣化できるよう日々の指導を行っていく。	B	家庭学習の習慣は十分とは言えない。家庭に周知しているのに評価が上がらないなら原因を分析したほうがよい。保護者の理解協力が必要。継続的な啓発活動。	家庭学習の習慣が身に付いている児童もいるが、全体的には不十分な現状である。ドリル学習だけではなく、自主学習ができ、オンラインでの学習も視野に入れた家庭学習の仕方も取り入れ、定着を目指す。
⑧学校は、毎週火曜日・水曜日のスタディタイムで既習事項を確認して、子供たちに算数の基礎・基本の定着を図る努力をしている。	B	スタディタイムを利用し、教材の開発等工夫して指導しているが、算数の基礎・基本が定着していると認識している保護者は8割である。	15分間の短時間学習を有効に活用するために、指導方法を更に改善していく。タブレット端末を活用したワーク等の活用も検討する。低学年の授業時数を増やし、基礎・基本の定着を図る。	B	大いに進めてほしい。コロナにより体力も学力も低下しているのではないかと引き続き取り組みを。	算数の基礎・基本の定着のためスタディタイムに取り組んできたが、成果にはなっていない。次年度低学年の時数を増やし、基礎・基本の定着を図る。
⑨学校は、外遊びの励行、大縄週間の取組を通して、子供たちの体力向上に努めている。	A	中休みの外遊びでは、児童は元気いっぱい校庭で活動している94%の保護者がそう思うと回答している。	コロナ禍での三密を避けながら、児童の関わりや体力向上に向け、業間体育の在り方を再度考えていく。	A	休み時間だけでなく、体育の授業自体がゲーム感覚で楽しめるように工夫していた。外遊びはとても大事。ストレス発散、体力増進に役立つ。	体力の状況を把握し、全校・学年・クラスでできることを考え、体力向上を目指す。コロナ禍の中、体力の向上を図ることが難しかった。なわとび週間など外での取り組みを今後も継続して取り組み、体力向上を図っていく。
⑩学校は、学級活動やいじめアンケートの取組など、学校全体でいじめのない学校づくりを進め、対応している。	B	各学期のいじめに関する授業や年4回のアンケート実施とその後の対応により、いじめ対策に対する肯定的な意見は8割を超えている。	今後も全教職員でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて情報を共有し、組織的に対応していく。	B	いじめは先生方の見えない所で起こる。PTAでも先生方と協力していく。現在足りていない部分は何かの分析、それに応じた行動をしないと改善しないのではないかと。	年4回のいじめアンケートや学期ごとのいじめに関する授業を通して、いじめの未然防止に努めている。普段の児童の把握をよりできるよう、また、児童の様子の情報交換が密にできるよう、教員間でより意識していく。

⑪学校は、新型コロナウイルス感染防止の対策を行っている。	A	手洗い、うがい、マスクの着用など新型コロナウイルス感染予防の意識をもっている児童は95.5%と定着している。	新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、換気、消毒等は続けていく。一方で教育平常化に向け、状況に応じた対応をとれるようにしていく。	A	マスクの有無で、今後が不透明な状況。学校側は良く努力している。できることには限界がある。引き続き感染防止策を。	今年度は、換気・消毒等の対策を行ってきた。今後も、各方面での情報を積極的に取り入れ、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めていく。一方で新しいマスクの対応についてよりよい方策を取り、安全対策は引き続き行っていく。
⑫学校は、新型コロナウイルス感染症対応に即した、工夫した教育活動を実施している。	A	新型コロナウイルス感染拡大予防対策に即した教育活動には、肯定的な意見が90.2%である。	体育学習発表会・学校公開の新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じての実施を、今後も状況に応じて対応していく。	A	給食時楽しくおしゃべりできるようになってほしい。今後のマスクの対応は、難しい。過度に神経質にならない運営でよかった。感染対応にプラスの技術の導入を。	来年度は、より学校正常化に向けての対応を工夫しつつ、教育活動の充実を目指していく。